

●認知症サポーターのPRキャラクターについて

Q.

広報しばた9月2日号の表紙に掲載されている認知症サポーターのPRキャラクター「ロバ隊長」について、御意見申し上げます。

英和辞書によると、ロバ(donkey)には、「忍耐」という意味もありますが、その反面「ばか者」「愚か者」という意味もあるようです。

広報しばたに掲載されているとおり、「急がず」「着実に」という思いを込めてこのキャラクターを定めたこととは思いますが、良くない意味(ばかもの・愚か者)を含む以上、認知症サポーターのPRキャラクターには相応しいとは言えず、誤解を招く恐れがあります。

よろしく申し上げます。

(令和6年9月受付)

A.

広報しばた9月2日号の表紙に掲載されている「ロバ隊長」は、認知症を理解し、認知症の御本人や御家族を温かく見守る支援者である「認知症サポーター」を全国で養成していく「認知症サポーターキャラバン」のマスコットであります。

「ロバ隊長」には、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりへの道のりの先頭を歩き、ロバのように急がず、着実に一步一步進んでいくという意味が込められており、全国キャラバン・メイト連絡協議会によって利用が推進され、認知症サポーターの育成や認知症支援のマスコットとして、全国で使用されております。

この「認知症サポーターキャラバン」の活動は着実に展開され、認知症サポーターの人数は、全国で約1,500万人(令和6年6月30日時点)となっております。当市においても、約16,000人の方に養成講座を受講いただいております。認知症の理解者の裾野は、着実に広がっております。

しかしながら、御指摘のように、海外ではロバが愚か者・怠け者の象徴として用いられることがあります。担当課から全国キャラバン・メイト連絡協議会に御意見をお伝えしたところ、「ロバ隊長」は平成19年の夏からマスコットとして使用されており、使用当時には同様の指摘が数件ありましたが、その後は10年以上指摘がないことから、全国に「忍耐強さ」の象徴としてのロバのイメージが浸透したもの捉えており、今後もPRマスコットとして「ロバ隊長」の利用を継続していくとのことであります。

認知症に対する偏見やネガティブなイメージをなくし、正しい理解を広めるためには、ロバのように忍耐強く着実に歩みを進める取組が重要であります。現時点では全国的に定着している「ロバ隊長」をPRマスコットとして使用しながら、認知症支援を推進していきたいと考えておりますので、何とぞ御理解くださいますようお願い申し上げます。

(令和6年9月25日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。